

# 八重山・宮古襲来 明和の大津波

1771年4月24日（246年前）



大津波の犠牲者を追悼する石垣市長

## 先島大津波 150～400年周期

石垣・宮古両島周辺の島々では、建物や人に被害をもたらす規模の津波が、過去150年～400年の周期で起きていたことを初めて突き止めたと東京大と東北大チームが平成25年8月9日発表した。

島の海岸には、津波で打ち上げられたとみられ、「津波石」と呼ばれるサンゴ石が散乱しており、周期は津波石の炭素年代分析で判明した。

### 過去2400年間調査 東大・東北大チーム

石垣、宮古島周辺では1771年に波の高さが最大で約30メートル、死者が1万2千人を超えた「明和津波」があったことが知られるが、それ以前の記録はほとんどなく、発生周期は不明だった。東大の荒岡大輔さんは「将来の津波災害の予測に役立つ」としている。

チームは、石垣島や多良間島、宮古島など計六つの島の海岸で、ある程度大きな津波石の痕跡とみられる規模1メートル以上のハマサンゴ種の化石123個を選び、表面の放射性炭素年代を分析。サンゴは海岸に打ち上げられることで成長が止まるため、表面の分析で津波の発生年代が推定できるという。

その結果、過去2400年の間に150年～400年の周期で津波があつたことが分かった。

石垣島東岸にある単一群体のサンゴ石としては世界最大の「バリ石」(直径9メートル)も調べ、明和津波で打ち上げられたことを突き止めた。

(平成25年8月10日・沖縄タイムス)

# 明和の大津波の概要 (八重山地震津波)

**発生日：**

1771年4月24日（明和8年）午前8時頃

**震源地：**（諸説があります。）

石垣島の東南東沖約40km付近  
(東経124度30分、北緯24度00分)

**規模：**

マグニチュード7.4 地震・大津波を伴う  
地震動の被害そのものは少なかったとされ  
る

**死者：**

約12,000人（八重山で約9,400人、  
石垣島で人口の48%が死亡）  
(宮古、約2,500人)

# 1771年4月24日石垣島を襲來した明和大津波の概要

- 津波の前駆現象—激しい地震、東方に雷鳴のような轟音、異常な干潮現象
- 津波の状況---石垣島の40%が潮に浸かる。河川に沿って深部に浸入し、鞍部を西に越流した。
- 津波被害---八重山群島人口の32%(9313人)を失う。完全に流失した村-8村、部分流失-7村。
- 津波による変貌---凹凸した海岸線が流出土砂で埋め立てられた。
- 津波の後の社会現象---80年間にわたる飢饉、疫痢、マラリアの発生と人口減少。吸血赤蠅の大発生による牛馬斃死。耕作地の流亡による食料減産。

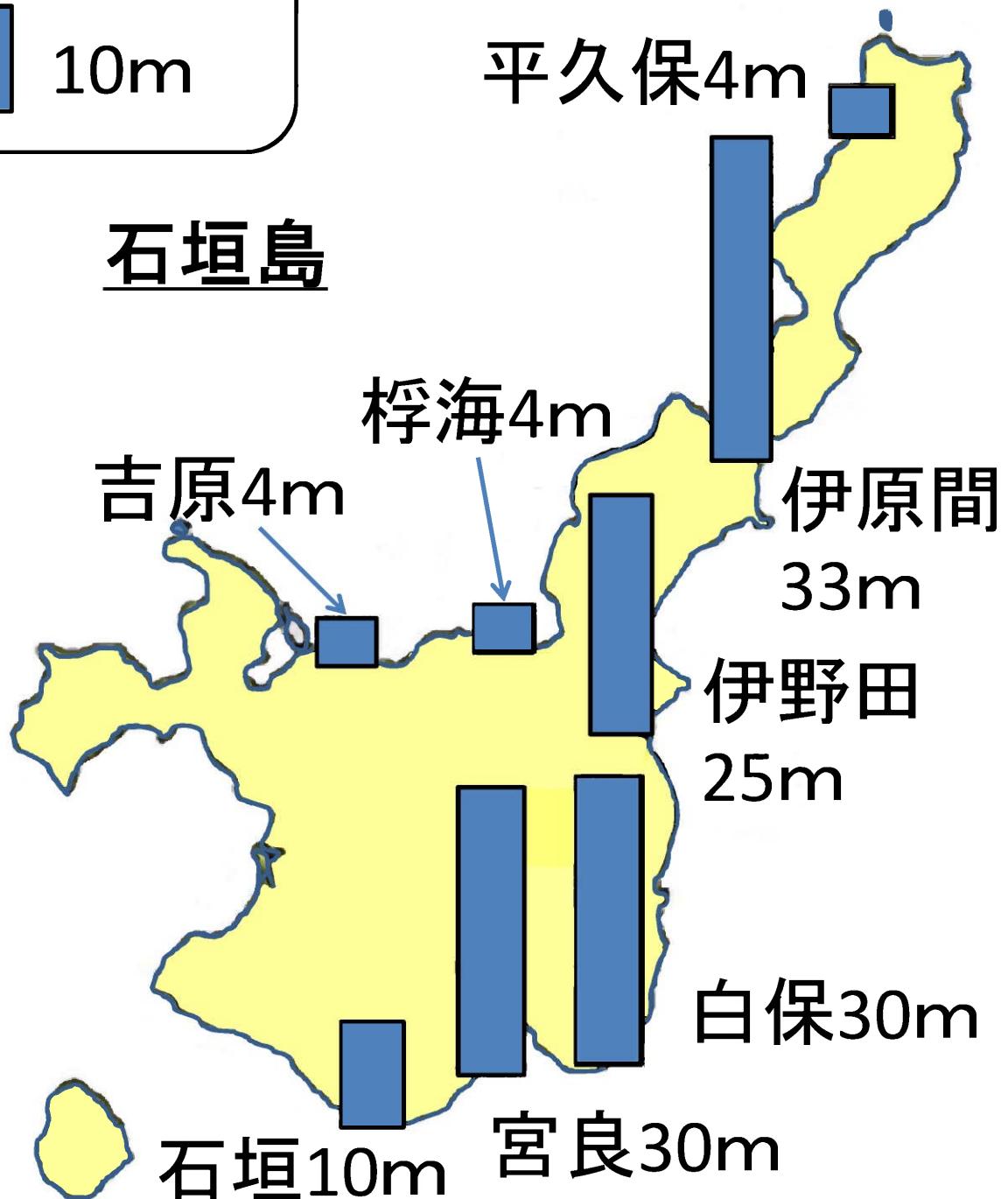
## 遡上高



10m

## 明和の大津波の遡上高

### 石垣島

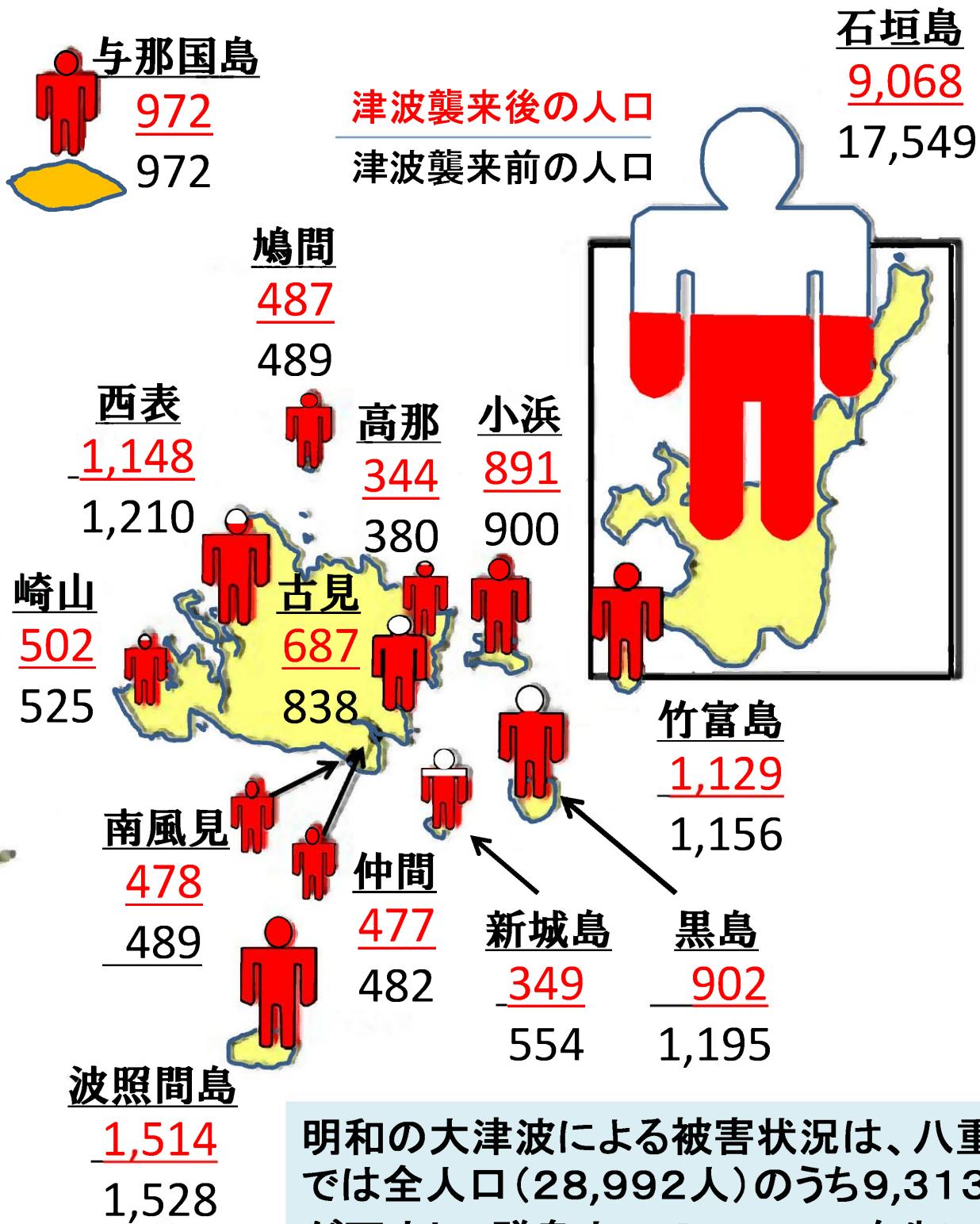


地震の揺れの直後、各地を大津波が襲いました。津波の遡上高（陸を駆け上った高さ）は、石垣島南東部から東部海岸で30m以上、石垣島北西部で4m 黒島、波照間島で5m 多良間島で15m 宮古島周辺で約10mと推測されています。

琉球大学理学部物質地球化学科中村衛(地震学)研究室ホームページより引用

# 明和の大津波による八重山地方の人的被害状況

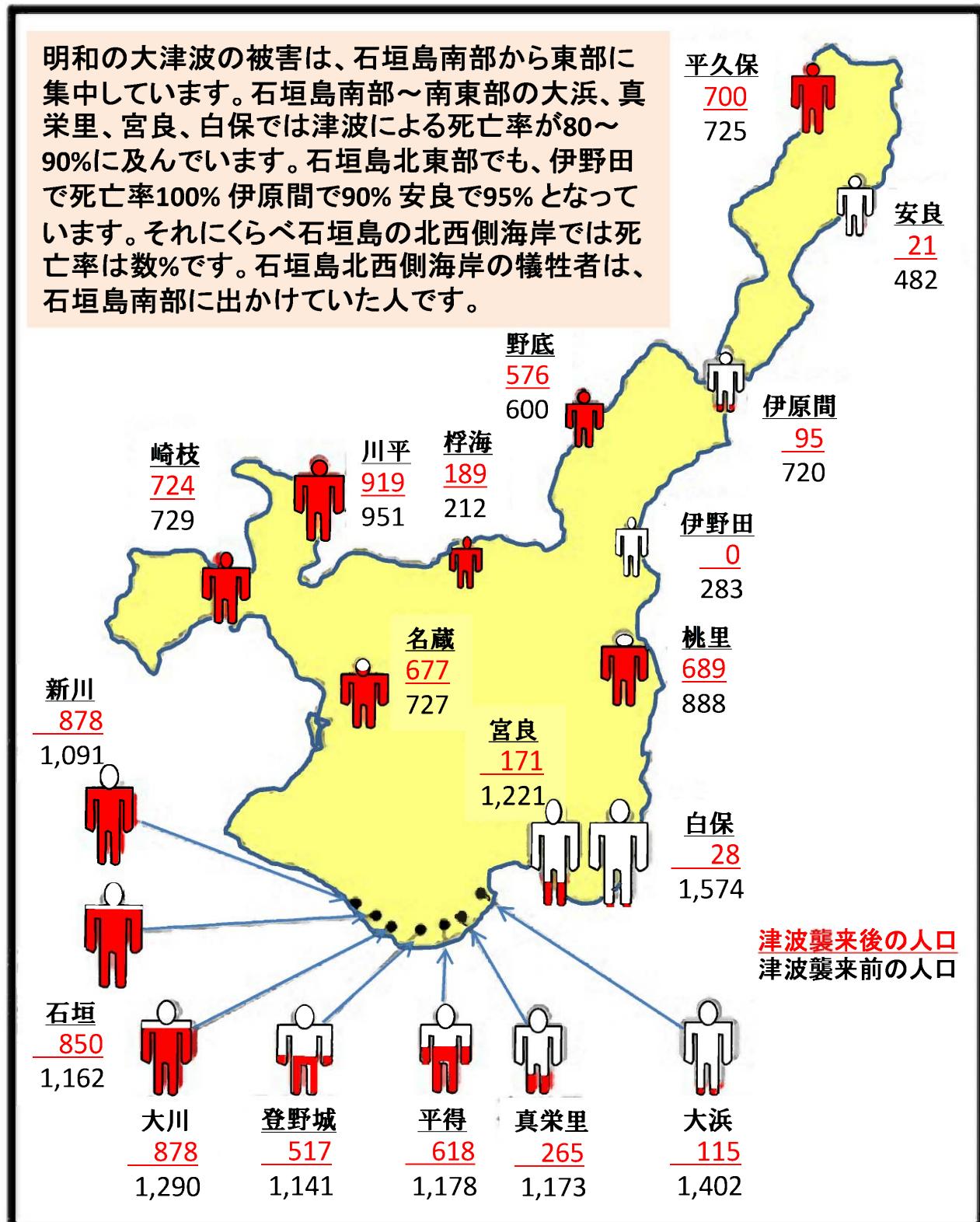
琉球大学理学部物質地球化学科中村衛(地震学)研究室ホームページより引用



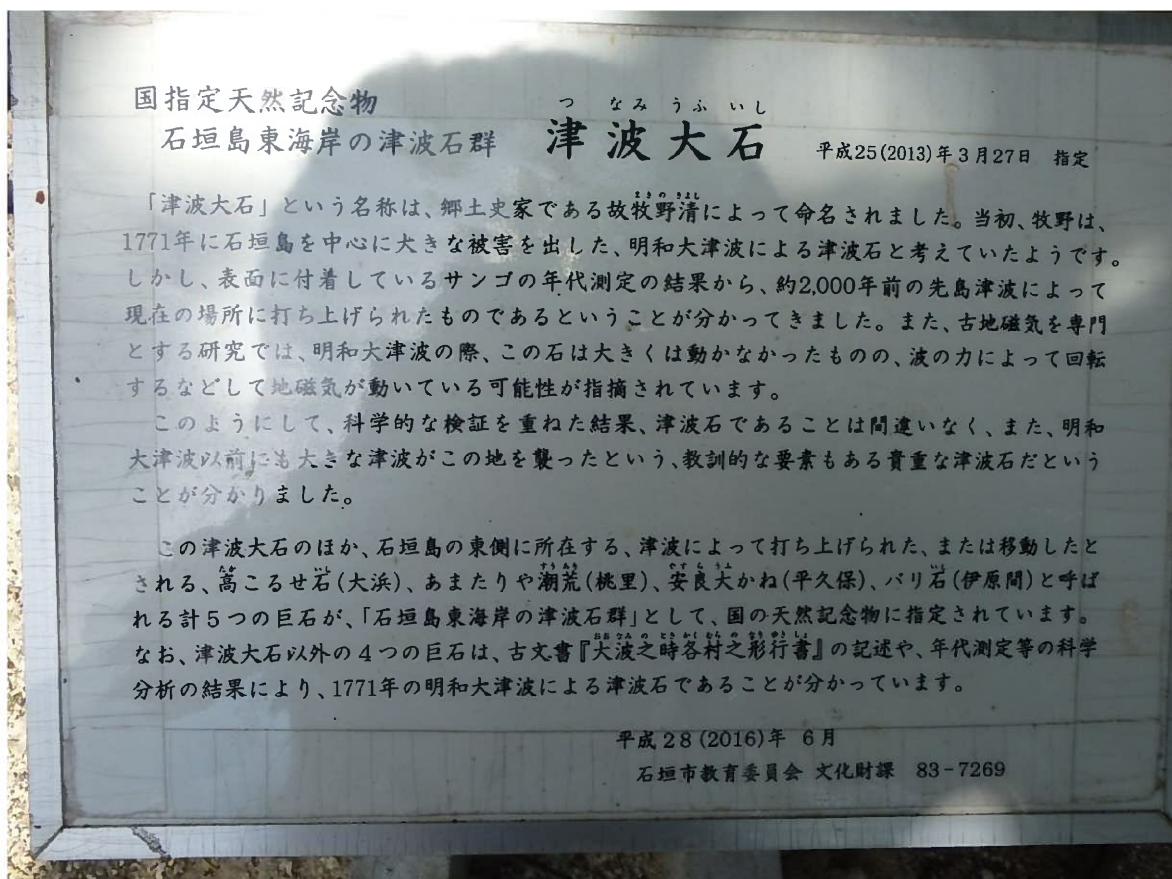
明和の大津波による被害状況は、八重山では全人口(28,992人)のうち9,313人が死亡し、群島人口の32.1%を失いました。(宮古は2,548人が死亡)

# 八重山地震津波(明和の大津波)直前・直後の石垣島の人口分布

琉球大学理学部物質地球化学科中村衛(地震学)研究室ホームページより引用



## 津波大石(つなみうふいし)



## 明和大津波遭難者慰靈之碑



石垣市宮良にある明和大津波の犠牲者を祀った慰靈碑。  
明和大津波は1771年に八重山諸島を襲った、石垣島南東沖を震源とする地震による大津波で、死者・行方不明者9313名（八重山）を出した。

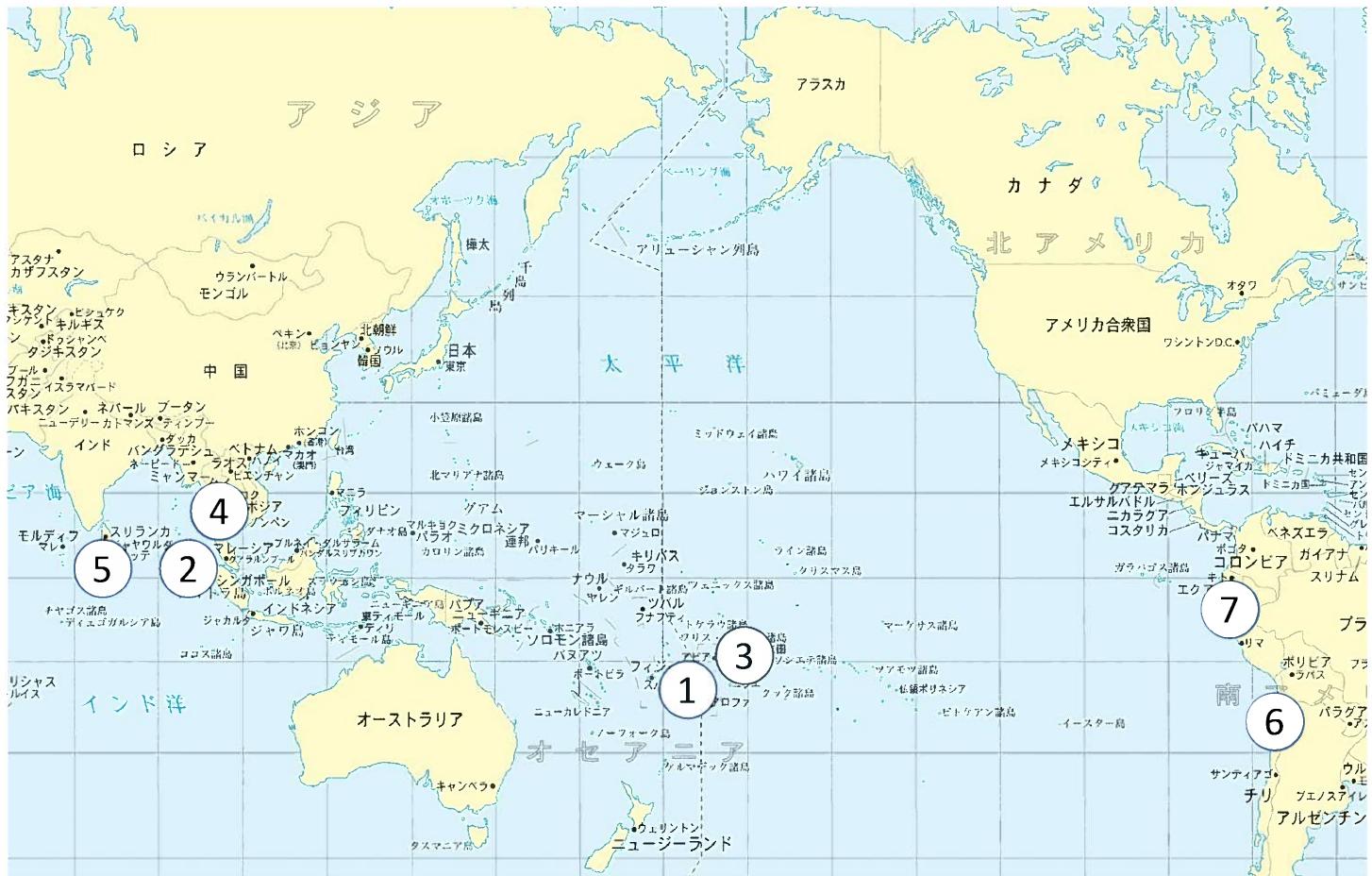
# 明和大津波遭難者慰靈之碑 碑文



明和大津波災害関係諸記録抜粋  
地震の規模と位置(東京天文台編理科学年表によ  
る)  
八重山地震津波

# 世界各国を襲った大津波の痕跡・慰靈碑等

番号	概要	地震概要	番号	概要	地震概要
1-1	世界最大級の津波石 (トンガ・カラアウ村)	・発生日:数年前	2-5	津波で被災した 発電船 (インドネシア・アチェ)	<スマトラ沖大地震 ・インド洋津波> ・発生日:2004.12.26 ・規模:M9.1 ・死者・行方不明者 :22.7万人
1-2			3	津波慰靈碑 (サモア・ウポル島タファイガタ) ※慰靈碑設置:2010年	<サモア沖地震> ・発生日:2009.9.29 ・規模:M8.1 ・死者:148人
1-3			4-1	津波で被災した船 (タイ・Bang Niang)	<スマトラ沖大地震 ・インド洋津波> ・発生日:2004.12.26 ・規模:M9.1 ・死者・行方不明者 :22.7万人
1-4			4-2		
2-1	住宅に乗り上げた漁船 (インドネシア・アチェ)	<スマトラ沖大地震・ インド洋津波> ・発生日:2004.12.26 ・規模:M9.1 ・死者・行方不明者 :22.7万人	5	津波慰靈碑 (スリランカ・南部州ゴール県) ※慰靈碑設置:2006年	<マウレ地震・津波> ・発生日:2010.2.27 ・規模:M8.8 ・死者・行方不明者:521人
2-2	被災者墓地、石碑とモニュメント (インドネシア・アチェ)		6	津波慰靈碑 (チリ・コンステイティション市) ※慰靈碑設置:2011年	
2-3	※墓地・石碑設置:墓地としての利用は 被災直後から、石碑とモニュメントは 2012年まで段階的に整備		7-1	被災したバスの残骸 (ペルー・ウンガイ)	<アンカシュ地震> ・発生日:1970.5.31 ・規模:M7.7 ・死者・行方不明者 :約7万人
2-4	津波で被災した病院 (インドネシア・アチェ)		7-2	被災者を慰靈する教会 (ペルー・ウンガイ) ※慰靈碑設置:2017年	



1-1



1-2

